

科目名	聖隷の理念と歴史
科目責任者	入江 拓
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「天地の間にこの子の五尺の体を入れてやるところがない」。結核が日本中に蔓延していた昭和のはじめ、行くところを失った一人の青年を連れた老人のこの言葉が聖隷の働きのはじめにありました。本科目では、聖隷にさまざまな形で関わってきた方々により、聖隷から何を学び・感じたのか、また何を継承していくべきなのかをお話いただき、本学の重要な構成員である学生一人ひとりが聖隷の理念と働きを理解する機会とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教精神を基盤とした「生命の尊厳と隣人愛」について理解し、自分の言葉で説明ができる。 2. 「聖隷」の言葉の意味、聖隷のはじまりを自分の言葉で他の人に伝えることができる。 3. 聖隷の理念の表明としての聖隷グループの各法人の活動を知り、その働きの広がりについて自分の言葉で説明ができる。 4. 自らが聖隷クリストファー大学で学ぶ意味を考え、表現することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ> 各学部担当教員：入江拓（看護）、渡辺泰宏（社福）、大井川宏明（社福）、田中真希（リハ）</p> <p>第1回：聖隷との出会い：オリエンテーション 入江拓（看護学部教授）</p> <p>第2回：聖隷の創立者たちの生きざま 長谷川了（学校法人聖隷学園理事長）</p> <p>第3回：聖隷の教育が目指すもの 聖隷から教えられたこと 大城昌平（本学学長） 藤本栄子（看護学部長）</p> <p>第4回：聖隷の実践は介護から始まった 聖隷の理念とリハビリテーション 横尾恵美子（社会福祉学部長） 新宮尚人（リハビリテーション学部長）</p> <p>第5回：聖隷の理念と看護 大手歌子（元聖隷三方原病院総看護部長）</p> <p>第6回： _____ 吉岡麻理（本学卒業生、元聖隷短大看護学科教員）</p> <p>第7回：世界に広がる聖隷の働き 太田雅子（本学社会福祉学部教授）</p> <p>第8回：神戸聖隷福祉事業団のはたらき 西郷昌一（神戸聖隷福祉事業団神戸聖生園施設長）</p> <p>第9回：聖隷リハビリの使命と活動 ー作業療法の視点からー 伊藤信寿（リハビリテーション学部作業療法学科長）</p> <p>_____ 谷哲夫（リハビリテーション学部言語聴覚学科長）</p> <p>第10回：小さい者の一人を大切にすることを 稲松義人（社会福祉法人小羊学園理事長）</p> <p>第11回： _____ 富永裕美（聖隷こども園めぐみ園長）</p> <p>第12回：牧ノ原やまばと学園のはたらき 長沢道子（社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長）</p> <p>第13回：聖隷の働きと教会 森田 恭一郎（元遠州栄光教会牧師）</p> <p>第14回： _____ 鈴木淳司（社会福祉法人十字の園理事長）</p> <p>第15回：看護学生時代の私から見た人間長谷川保 入江拓（看護学部教授）</p> <p>※春semesterと秋semesterで順番は異なります。</p>

アクティブ ラーニング	<p>本学ならではのユニークな科目です。聖隷の実践の積み重ねとそれに関わった人たちの生きざまから直接多くのことを感じ学んでください。感受性豊かな若い時に、自分が所属する集団によって立つところの理念への理解を深め、その歴史から学ぶことは、今後の学びや将来の専門職としてのビジョンのみならず、生き方や人との出会い方に少なからず影響を及ぼすものです。聖隷歴史資料館(5号館1階)の見学とレポート課題を必須とします。講師の先生方の話を聞き、積極的に聖隷歴史資料館を事前事後学習として複数回活用して、感じたこと考えたことをレポートに反映させてください。</p>
評価方法	<p>授業への取り組み状況 30% (成績評価の大前提です)、レポート 50%、歴史資料館感想カード 20%</p>
課題に対する フィード バック	<p>その都度の質問、意見をリアクションペーパーやメールで頂ければ、可能な限りお返事いたします。</p>
指定図書	<p>大学指定の「聖隷事業の理念と歴史」テキスト</p>
参考図書	<p>長谷川保『夜もひるのように輝く』講談社 長谷川保『神よ私の杯は溢れます』ミネルバ書房</p>
事前・ 事後学修	<p>聖隷で学ぶ学生として、また本学の大事な構成員として、聖隷歴史資料館の見学を義務付けています。図書館にある聖隷関係の関連図書で興味を惹かれるものを1冊は読み、聖隷の理念に関する理解を深め、上記レポート及び感想カードに反映させてください。目安時間 40 分。</p>
オフィス アワー	<p>本講義はキリスト教の信仰を強要するものではありません。安心して自分を振り返り、永遠なるものに目を向ける時としてください。入江研究室は 3403 (taku-i@seirei.ac.jp) です。あらかじめメールでアポイントをとっての来訪や、在室している場合の来訪はいつでも歓迎いたします。</p>
実務経験に 関する記述	

科目名	キリスト教概論
科目責任者	永井 英司
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>聖書に初めて接する人がほとんどではないかと思えます。</p> <p>15回の授業を通して旧、新約聖書を概観し、中心的な教えを学びます。また、保健医療福祉の専門職者に必要な「生命の尊厳」と「隣人愛の実践」について学びます。</p> <p>授業は聖書を用いながら進めますので、必ず聖書を持参して下さい。</p> <p>指定図書の『キリストの教え』も適宜引用しながら進めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教「聖書」全般の基礎知識を習得する。 2. キリスト教「聖書」の重要な教えを習得する。 3. 建学の精神の意味、また大学礼拝に臨む意義を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション 聖書について 課題レポート等々について、 正典としての聖書 礼拝 神と人間 イエス・キリスト 教会等々について</p> <p>第2回：旧約聖書の理解のために 創造物語について</p> <p>第3回：旧約聖書の理解のために 神話的な物語から歴史的な物語について</p> <p>第4回：律法の教えから 十戒 レビ記 申命記 詩編 箴言 コヘレトの言葉について</p> <p>第5回：旧約聖書が語る歴史から ヨセフ物語 モーセとアロン 罪と救いの待望 について</p> <p>第6回：旧約聖書のメシア預言について マラキ書から福音書へ</p> <p>第7回：新約聖書の理解のために イエス・キリストの生涯について</p> <p>第8回：使徒言行録と使徒パウロから 12弟子とパウロの働きについて</p> <p>第9回：イエスの奇跡物語と譬え話から (1) 「山上の説教」等について</p> <p>第10回：イエスの奇跡物語と譬え話から (2) 「善いサマリヤ人」等について</p> <p>第11回：イエスの十字架刑をめぐる (1) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書から</p> <p>第12回：イエスの十字架刑をめぐる (2) マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書から</p> <p>第13回：旧約聖書と新約聖書の関係について 預言と成就について</p> <p>第14回：隣人愛について ヨハネ福音書13：1～20節を中心に</p> <p>第15回：授業の振り返りとまとめ</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。 近隣の教会を訪ねてみることをお勧めします。
評価方法	1. 「キリスト教概論」の受講者は大学礼拝への出席が義務となります。 2. 『夜も昼のように輝く』読書感想レポート (25%)、課題レポート (25%) と定期試験 (50%) 再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行 『夜も昼のように輝く』長谷川保著・聖隷学園 『キリストの教え』鈴木崇巨著・春秋社
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	聖書の通読 大学礼拝への出席 キリスト教関連の文献や辞書の活用。目安時間 40 分。
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。
実務経験に 関する記述	

科目名	キリスト教人間論
科目責任者	永井 英司
単位数他	1単位 (15時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間が生きていくために、なぜ、「生命の尊厳と隣人愛」の教えが必要なのであろうか。聖書には、その理由が告げられている。聖書の人間理解について学びながら、保健・医療・福祉の分野で働くために必要な知識や見識を身に付ける。
到達目標	1. 聖書が教える「人間」についての一般的知識を習得する。 2. 聖書が教える人間の尊厳、生命の尊厳について習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：人間論とはなにか 創世記第 1 章～ 3 章について</p> <p>第 2 回：創世記第 1 ～ 3 章に記されている人間の特性 (1) 人間の被造性 神の似姿の意味 普遍的平等性 墮罪 有限性</p> <p>第 3 回：創世記第 1 章～ 3 章に記されている人間の特性 (2) 人間の罪について 人間は助け合って生きる存在 聖書に見る障がい者や高齢者への言及</p> <p>第 4 回：イエス・キリストの人間理解について 神を愛することが第一で隣人愛は第二 小さき者への愛 ジェンダーを超えた愛、差別のない人間理解 アンスローポス ホモファーベル ホモサピエンス</p> <p>第 5 回：パウロの人間理解について イエスの教えの実践者 信仰と実践 人間の問題は罪と死 理性と良心 邂逅 回心 コペルニクス転回 パラダイムシフト</p> <p>第 6 回：人間は一人では生きていけない 男女、家庭、夫婦、親子、VIP、我と汝 神の宝の民 倫理の第一原則 ヨハネ 13：1～ 福祉の第一原則 レビ記 23：22 他</p> <p>第 7 回：神の賜物について アガペー タラントン 人格の尊厳</p> <p>第 8 回：人間その弱い者への配慮について 愛は痛みを伴う 愛は種類ではなく質 ヘレニズムとヘブライズムの視点 汎神論 偶像礼拝</p> <p>*授業はキリスト教概論の既修を前提に進めていきます。</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	論述式のテスト（100％）で評価する。 再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行
参考図書	授業の中で随時紹介します。
事前・ 事後学修	キリスト教関連の文献や辞書の活用 聖書の通読 大学礼拝への出席。目安時間 40 分。
オフィス アワー	研究室はキリスト教センター内にあります。時間等については初回の授業で説明します。
実務経験に 関する記述	

科目名	哲学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本年度は、私の新刊『「いのち」を生きる』(晃洋書房) をテキストに、「いのち」について哲学的に思索を深めたい。講義は、テキストの小見出し二つずつを取り上げて進める。なお、パワーポイントを用いて、重要人物、語句等について補足する。
到達目標	1. 「いのち」について、哲学的に理解すること。 2. 哲学的な思索の特徴をつかむこと。 3. 各自が思索する際の基礎的知識を身につけること。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：人間の属性</p> <p>第2回：大いなるいのち</p> <p>第3回：われ頑石なり</p> <p>第4回：ハイデガーの問い</p> <p>第5回：月を指す指</p> <p>第6回：法と名がつながる</p> <p>第7回：弁証法</p> <p>第8回：神と如来と名号</p> <p>第9回：回心と瞬間</p> <p>第10回：愛と慈悲</p> <p>第11回：精神（霊性）</p> <p>第12回：律法と恩寵</p> <p>第13回：肉の内なる刺</p> <p>第14回：無常性の克服</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対する フィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	山下秀智『「いのち」を生きる』（晃洋書房）、2019
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	次回分を読み、わからない用語や人物等について調べておく。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	無し

科目名	文学
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本授業では、奈良時代から平安時代までの文学作品を取り上げ、文学の芸術性を学ぶ。また、日本古代の文学作品を読むことによって、Yes と No がはっきり言えない、あるいは桜花や朧月のようなぼんやりとしたはかないものを好む、日本独自の文化というものをも探してみたい。さらに、学問の基本的考え方を学んで、日本文学史の問題を解明する作業も行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古事記・万葉集から、日本の、神・天皇・宗教について理解する 2. 万葉集・古今和歌集から、日本独自の文化について理解する 3. 古今和歌集・伊勢物語から、学問の基本的な考え方を理解する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：本授業の説明・芸術としての「文学」</p> <p>第2回：古事記（日本の神々と国生み）</p> <p>第3回：古事記（イザナギ・イザナミと天照大御神）</p> <p>第4回：古事記（天照大御神とスサノオ）</p> <p>第5回：古事記（三種の神器、天皇家と日本の宗教）</p> <p>第6回：万葉集（万葉集と日本の文化）</p> <p>第7回：万葉集（神としての天皇）</p> <p>第8回：万葉集（庶民の生活と昔話）</p> <p>第9回：古今和歌集（古今集と紀貫之）</p> <p>第10回：古今和歌集（古今集と和歌）</p> <p>第11回：古今和歌集（和歌と日本の文化）</p> <p>第12回：伊勢物語（伊勢物語とは）</p> <p>第13回：伊勢物語（伊勢物語と古今集の関係）</p> <p>第14回：伊勢物語（古今集と伊勢物語の成立）</p> <p>第15回：伊勢物語（伊勢物語成立説の検討）</p>

アクティブ ラーニング	授業の中で課題に取り組んでもらう回を設けてある。
評価方法	定期試験を 100 点満点とするが、課題をクリアした場合は、10 点を限度として加点する。 なお、再試験は行わない。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・課題に対するフィードバックは、次の授業中に行う。
指定図書	テキストとして、プリントを配布する。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	前もって、テキストを配布するので、指定した部分をあらかじめ読んでくること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	

科目名	心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位(30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間理解をする上で必要な心理学的知識の基礎について講義を行う。心理学の領域は多岐にわたるため、代表的な各領域の基礎的な事柄について、具体的事例を通して人間理解の基本的な視点・理論を紹介する。
到達目標	1. 対人援助の専門職として人間理解（自己理解・他者理解）をする上で必要かつ基礎的な心理学的知識を修得する。 2. 自分や他者を理解することや人間の心に対する興味・関心を高める。 3. 心理学的知識を得ることで、自分自身や他者との関わりについて考える。
授業計画	<p>第1回 心理学とは何か</p> <p>第2回 感覚・知覚・認知1：感覚・知覚の一般的特徴と個人差</p> <p>第3回 感覚・知覚・認知2：知覚の体制化、錯視</p> <p>第4回 感覚・知覚・認知3：知覚の恒常性、文脈の効果、選択的注意</p> <p>第5回 人格・性格1：性格検査①（エゴグラム）</p> <p>第6回 人格・性格2：性格検査②（20答法）</p> <p>第7回 人格・性格3：性格検査③（性格の理解）</p> <p>第8回 人格・性格4：性格検査の種類</p> <p>第9回 人格・性格5：性格理論、気質</p> <p>第10回 記憶1：記憶のメカニズム</p> <p>第11回 記憶2：短期記憶、長期記憶</p> <p>第12回 記憶3：忘却、目撃証言</p> <p>第13回 学習理論1：条件づけ</p> <p>第14回 学習理論2：観察学習、動機づけ</p> <p>第15回 適応：ストレスとコーピング</p>

アクティブ ラーニング	クリッカーによる双方向的な授業を行う。
評価方法	定期試験70%, 授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー、ムードルでの事後課題、クリッカーの回答を含む)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答、及び、ムードルでの事後課題の解説などをパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、ムードルでの事後課題に取り組む。さらに、講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	倫理学
科目責任者	山下 秀智
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	生命科学の急速な進歩により、人間の自然な誕生と死の現場に、科学技術が人為的な介入を開始して久しい。今や、素晴らしいとだけは言うておれない、様々な問題が噴出してきている。授業では、生命倫理を中心に、人間の生と死について、改めて思索を深めたい。授業は、パワーポイントを用い、ビデオなども見ながら、分かりやすく進める。
到達目標	1. 生命倫理学の基礎知識を習得する。 2. 現代における死生観の可能性を探る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生命倫理学の展開</p> <p>第 2 回：インフォームド・コンセント</p> <p>第 3 回：遺伝子の解読</p> <p>第 4 回：西洋医学の伝統</p> <p>第 5 回：死の隠蔽・タブー化</p> <p>第 6 回：出生前診断・中絶</p> <p>第 7 回：生殖技術</p> <p>第 8 回：脳死と臓器移植</p> <p>第 9 回：安楽死・尊厳死</p> <p>第 10 回：エイズ・薬害</p> <p>第 11 回：高齢化社会</p> <p>第 12 回：パーソン論</p> <p>第 13 回：仏教の生命観</p> <p>第 14 回：キリスト教の生命観</p> <p>第 15 回：生命の諸次元</p>

アクティブ ラーニング	講義中心の科目です。
評価方法	レスポンスカード 50%、レポート 50%
課題に対する フィード バック	レスポンスカードの内容については、次回授業の最初に回答等を行う。
指定図書	小泉博明他編『テーマで読み解く生命倫理』教育出版株式会社、2016
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	テキストの該当箇所、配布資料で、予習・復習する。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	無し

科目名	女性学
科目責任者	須藤八千代
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	女性学という学問誕生の歴史とそれを学ぶ意味を理解する。ジェンダー（社会的・文化的な性差）概念やフェミニズムの視点に立つ。専門科目の習得においてもその視点を活かす。女性のおかれている現代的状況を広く考察する教養を身につける。女性が抱える問題を多面的に取り上げ、現代社会における女性の生き方を検討する。講義をとおして、社会人としてまた医療福祉専門職として女性学の知見を活用する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性学の歴史と理論を理解する 2. 学生が自分の今の生き方と繋げて、女性の歴史と変化を理解する 3. ジェンダーやセクシャリティに視座をおいて社会を考える知識を得る 4. 福祉医療専門職に関するジェンダー課題を認識する
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：女性学を学ぶ—その意味と学び方</p> <p>第 2 回：女性学のこれまでとこれから</p> <p>第 3 回：ジェンダー平等とは何か</p> <p>第 4 回：家族問題その 1</p> <p>第 5 回：家族問題その 2</p> <p>第 6 回：結婚、離婚、再婚、婚活、同性婚</p> <p>第 7 回：子どもを産む、育てる</p> <p>第 8 回：女性と男性の働き方</p> <p>第 9 回：女性の老いと男性の老い</p> <p>第 10 回：福祉医療専門職と女性学—高齢者のジェンダー、セクシャリティ</p> <p>第 11 回：福祉医療専門職と女性学—障害者のジェンダー、セクシャリティ</p> <p>第 12 回：福祉医療専門職と女性学—病気とジェンダー、セクシャリティ</p> <p>第 13 回：福祉医療専門職と女性学—売買春、性暴力</p> <p>第 14 回：福祉医療専門職と女性学—男女共同参画センター相談室の相談とは</p> <p>第 15 回：まとめ：女性学が目指すもの</p>

アクティブ ラーニング	テキストとテーマのなかからキーワードを示し、学生はスマホなどを活用し400字程度の小レポートを毎回、授業の後半20分で書いて出す。学生に発言を求め双方向の授業をする
評価方法	定期試験 50%、小レポート（授業の理解、意欲等） 50%
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例の提示、小レポートの意見、評価を提示する。
指定図書	『女性学入門<改訂版>：ジェンダーで社会と人生を考える』杉本貴代栄編著、ミネルヴァ書房、2018年
参考図書	なし
事前・ 事後学修	新聞、テレビ、インターネットなど多様なチャンネルから関連情報をキャッチする。各回40分程度。授業の中で発言し小レポートに反映する
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に、もしくは教務事務センターを介して受け付ける。
実務経験に 関する記述	ソーシャルワーカー経験31年と現在の官民組織での相談員実務にもとづく授業です。

科目名	生活福祉文化論
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位(30時間) 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	保健見医療福祉には隣接する学問が多くあり、その考えと実践は、単に専門分野だけでなく、生きることすべてに関わる問題です。本講座では、多くの実践活動を学ぶことを通して、「生活」「福祉」「文化」の基本となる「Wellbeing (よい存在)」について考え、実践を創造する力を育んでいきます。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の対象を多角的に理解し、それぞれのニーズや背景要因を理解する。 2. 他者をさまざまな側面から理解できる。 3. 「生活」「福祉」「文化」のもの見方を習得する。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ ＜担当者＞坂本道子</p> <p>授業は、視聴覚教材を含め、多くの実践に触れながら以下のような内容で実施します。</p> <p>1. 「生活福祉文化」とは何か——パイオニアからの学び</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の進め方、多角的なもの見方、参加型双方向授業</p> <p>第2回：当たり前の「生活」を疑う——生活学・生活福祉論</p> <p>第3回：「生活文化」とは</p> <p>第4回：「福祉文化」とは</p> <p>第5回：「生活福祉文化」とは——患者・利用者・生活者からの視点</p> <p>2. 生活福祉文化の実践例——福祉・リハ・看護場面で</p> <p>第6回：日常生活と生活福祉文化（衣食住、美容、交通、デザイン等）</p> <p>第7回：芸術活動と生活福祉文化（音楽・絵画・書道、陶芸等）</p> <p>第8回：遊びと生活福祉文化（余暇、レクリエーション、趣味、旅行、生涯教育等）</p> <p>第9回：健康・スポーツと生活福祉文化</p> <p>第10回：自然・動物と生活福祉文化（ペット、動物、園芸等）</p> <p>3. 生活福祉文化としての展開——地域で築く生活福祉文化</p> <p>第11回：子ども・若者と生活福祉文化</p> <p>第12回：高齢者と生活福祉文化</p> <p>第13回：障害者と生活福祉文化</p> <p>第14回：女性と生活福祉文化</p> <p>第15回：外国人と生活福祉文化、海外の生活福祉文化</p>

アクティブ ラーニング	授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。
評価方法	授業態度 20%、定期試験レポート 80%（評価基準はルーブリックで示す）
課題に対する フィード バック	授業のなかで取り上げる
指定図書	印刷物を随時提示する
参考図書	京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学科編 2004 『生活へのまなざし』 ナカニシヤ出版 日本福祉文化学会 『実践。福祉文化シリーズ全 5 巻』『新・福祉文化シリーズ全 5 巻』 明石書店 石川実・井上忠司編 1998 『生活文化を学ぶ人のために』 世界思想社、 一番ヶ瀬康子・尾崎新編著 1994 『講座生活学 7 生活福祉論』 光生館
事前・ 事後学修	1, 授業中に配布された資料等を事前・事後ともに熟読し、授業内容を理解する (40 分) 2, 授業によって得た知識を、生活の中で実体験や社会問題との関連性について考察を深める (40 分)
オフィス アワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	レクリエーション概論
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	レクリエーションは、医療・福祉・教育の様々な場面で活用されている。レクリエーションの概念と意義を理解したうえで、レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を学び、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションとは何か、現代社会においてレクリエーションがいかに大切であるかを理解する。 2. レクリエーション支援、レクリエーション計画の考え方を理解し、保健・医療・福祉・教育の現場における支援に生かすことができるようになる。 3. 自分自身のレジャー、レクリエーションの必要性を知り、より心豊かな生活を指向できるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：レクリエーションとは何か 学びへの導入 レクリエーションとは〇〇〇である 〇〇は一つではない</p> <p>第 2 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (1) 障害者スポーツ、絵画療法 現場見学の説明</p> <p>第 3 回：日本におけるレクリエーションの歴史 日本におけるレクリエーションは〇〇〇により普及した</p> <p>第 4 回：人間の権利としてのレクリエーション 障害者にとって〇〇〇〇も喜びなのだ</p> <p>第 5 回：レクリエーションの本質 レクリエーションとは〇〇的なものであるがゆえに〇〇である</p> <p>第 6 回：レジャーを考えるー余暇生活設計ー 日本人は〇〇時間の約 3 倍の〇〇時間をもっている 日本人が最も多く自由時間を費やしているのは〇〇である</p> <p>第 7 回：レジャーへの理解を深める 〇つの楽しい、自由時間の〇つの過ごし方</p> <p>第 8 回：レジャー・レクリエーションの視点から、子どもたちの問題を考える 遊び成立の条件〇つの間 〇〇〇〇に子守りをさせないで！</p> <p>第 9 回：レクリエーション援助とは 個人へのレクリエーション援助 入院している高齢者の願いは何か？</p> <p>第 10 回：集団を介した援助 レクリエーション環境の整備 行事の意味 すてきな保育園の環境づくり</p> <p>第 11 回：レクリエーション計画 企画の基本要件〇W〇H アセスメント入門</p> <p>第 12 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (2) 回想法、遊びリテーション</p> <p>第 13 回：医療・福祉分野におけるレクリエーションの実際 (3) 障害者スポーツ、生きがい療法</p> <p>第 14-15 回：福祉現場におけるレクリエーションの実際(現場見学) 静岡バリアーズ(車椅子ツインバスケット)、浜松ボッチャ倶楽部 COOL、 絵画教室(第 2 アドナイ館)</p> <p><受講者へのメッセージ>履修希望の学生は、第 1 回目から出席してください。履修希望者が履修可能人数より多い場合、第 1 回目の出席者を優先します。</p>

アクティブ ラーニング	ピアタイム（ペアで意見交換）、アニマルタイム（マイクで発表）、Moodle へのフィードバック 現場見学
評価方法	レポート60%、授業への取組（関心・意欲・態度、Moodleフィードバック）40% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対す るフィード バック	Moodle やメールを活用し、フィードバックする。
指定図書	なし（資料配布）
参考図書	神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房 土門拳『腕白小僧がいた』小学館 リンダ・グラットン『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社 河合雅男『子どもと自然』岩波書店 ノーマン・カズンズ『笑いと言癒力』岩波書店 他 授業時に紹介する
事前・ 事後学修	授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。 毎回、授業後に Moodle にてフィードバックを行う。 授業での学びを日常生活、実習等に活用する。目安時間 40 分。
オフィス アワー	和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示
実務経験に 関する記述	

科目名	音楽
科目責任者	金山 智彦
単位数他	1単位(30時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	音楽に、苦手意識を持つ人でも、音楽が好きになることを目指して、音楽と向き合う科目。「音楽とは？」という問いを意識しつつ、様々な観点から音楽について考察し、実践することを通して、音楽についての理解を深め、音楽に対する感性を磨く。さらにこの体験を、仕事や日常生活に活かし、生涯にわたり、音楽文化に親しみ、豊かな人生を歩むことを目的とする。
到達目標	1. 音楽一般について、知識を身につけ、理解を深める。(音楽理論、歴史、様式など) 2. 楽器演奏、歌唱(合唱)、鑑賞などを通して、音楽の素晴らしさを体感する。 3. 音楽と生活の関りを意識し、自他の人生(社会)をより豊かにするために、音楽を活用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回: オリエンテーション & What' music? (あなたにとって音楽とは? 音楽は〇〇〇の叫び?)</p> <p>第2回: What a wonderful 音楽の教科書! (あの素晴らしい小・中学校の音楽をもう一度!)</p> <p>第3回: 指揮者になつ Ciao! (自分の思いを伝えよう! Conductor の存在意義とは?)</p> <p>第4回: 西洋音楽の歴史 Part 1 (音楽のルーツとは? 「ちょうちょうハちょうちょう?」)</p> <p>第5回: 西洋音楽の歴史 Part 2 (調の確立と崩壊と! Challenge the 現代音楽!)</p> <p>第6回: 記譜法の歴史(ヨーロッパ編) (どう記録する? あなたの歌(曲)をあなたなら…)</p> <p>第7回: 「ド・レ・ミ」はどこから? (ドは ドーナツのド? グレゴリオ聖歌の響き, 音名・階名・長短調!)</p> <p>第8回: 「ドレミの歌」に見る作・編曲の極意! (誰でも曲が作れ Chau!)</p> <p>第9回: 楽器あれこれ! 管・弦・打・鍵! (グラヴィチェンパロ コル ピアノ エ フォルテとは?)</p> <p>第10回: ゴスペルソングを歌おう! Part 1 (奴隷制度とキリスト教 『こげよマイケル』は、何を漕ぐ? 『Oh Happy Day』 『Amazing Grace』)</p> <p>第11回: ゴスペルソングを歌おう! Part 2 (Hallelujah & Amen ・ Christmas Songs)</p> <p>第12回: a cappella ア・カペラに挑戦! (『Kum Ba Yah』 って何語?)</p> <p>第13回: 音楽とイメージ (映画の中の音楽・日常生活の中の音楽 オペラと歌舞伎とフィギュアスケートと…)</p> <p>第14回: 声楽と器楽(形式と編成)あれこれ! (交響曲とは? 協奏曲とは? クワルテットとは?)</p> <p>第15回: 『Let' s Sing The Final!』 (まとめ)</p>

アクティブ ラーニング	授業のテーマに関連する実技・実習を随時行う。(合唱, 合奏, 鑑賞, 創作などを含む)
評価方法	授業への取り組み状況、課題提出物 (リアクションペーパー) : 30% レポート (定期試験) : 70%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー、レポートにコメントなどを記入し、返却する。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	いろいろな音楽に興味・関心を持ち、日常生活 (仕事) の中で音楽を活用することを試みる。 歌唱、楽器演奏、音楽鑑賞などを含め原則 40 分間。 (読譜能力、歌唱力、楽器演奏能力のレベルは特に問わない。)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「元ヤマハ音楽教育システム指導スタッフ、元浜松市立中学校音楽講師、 音楽教室主宰、幼稚園・キリスト教会などでのコンサート活動」の実務経験を有する講師が実 務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	音楽
科目責任者	二宮 貴之
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	この授業は一般教養として広く音楽に触れ、知識や技術を磨き、感性を高め教養を身に付けるための科目です。日本や世界の音楽を鑑賞し、歌唱等の音楽表現を通して広義に音楽について触れ学修します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽理論を学び音楽の構造を捉えることができる。 2. 音楽の鑑賞を通して曲の構成や曲想について感受することができる。 3. 歌唱の活動を通してハーモニーの美しさを感じ声で表現することができる。 4. 世界の様々な音楽のジャンルに触れ比較することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 日本 ドイツ</p> <p>第3回：音楽の基礎と鑑賞 音楽理論と世界の名曲 アメリカ フランス</p> <p>第4回：音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 楽器の種類と音色</p> <p>第5回：音楽の基礎と鑑賞 ブラスバンドの世界 ズーラシアンブラス</p> <p>第6回：音楽の基礎と鑑賞 オーケストラの世界</p> <p>第7回：音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 東南アジア ヨーロッパ</p> <p>第8回：音楽の基礎と鑑賞 世界の民族音楽の世界 アフリカ 南アメリカ 日本</p> <p>第9回：音楽の基礎と鑑賞 Jポップスの世界 ジャズの世界</p> <p>第10回：音楽の基礎と鑑賞 オペラの世界</p> <p>第11回：美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第12回：美しいハーモニーで歌おう 心と体の開放 二声体の合唱曲の練習と仕上げ</p> <p>第13回：子どもの発達と音楽の世界</p> <p>第14回：映画音楽の世界</p> <p>第15回：世界の音楽</p>

アクティブ ラーニング	音楽を視聴し言葉で批評たり合唱曲を歌う等の活動を通して体験的に学びを深化させていきます。
評価方法	授業態度 20%、個別課題 40%、レポート 40% ※個別課題では、各自のお気に入りの曲を紹介してもらいます。
課題に対する フィード バック	実技の場面ではグループ及び個人に対してアドバイスを致します。
指定図書	なし
参考図書	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）
事前・ 事後学修	各自講義の中で扱った曲について練習しておいてください。楽譜を手掛かりに事前・事後学修として音をとったり、リズムを確認したり、音楽を視聴するなどしましょう。目安時間 40 分。
オフィス アワー	初回時にお伝えします。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	健康スポーツ論
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1単位(15時間) 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	健康な人生を過ごすための生活処方を身体活動(運動・スポーツ)、栄養(食事)、休養を総合的に学習し、特に身体活動による健康づくりを中心に健康寿命の延伸を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門基礎科目の学修を通して、看護学の基礎となる知識を修得できる。 2. 運動・栄養・休養を学習し、自分自身と周りの人の健康に関心をもつ。 3. 学習した科学知見を単なる知識として留めるのではなく、日常生活での実践につなげる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：健康と健康増進の概念(国民健康づくり施策、健康日本21)</p> <p>第2回：栄養摂取と運動(健康と栄養、運動時のエネルギー源)</p> <p>第3回：肥満と痩せ(体脂肪の役割、肥満と痩せの判断基準、リバウンド現象)</p> <p>第4回：安静時代謝・メッツ(安静時代謝や運動の消費カロリー)</p> <p>第5回：メタボリックシンドローム・サルコペニア・フレイル(加齢に伴う身体変化)</p> <p>第6回：骨強度と生活習慣(骨粗鬆症の危険因子や予防対策)</p> <p>第7回：筋力トレーニング(適切な筋力トレーニングの条件や筋肥大のメカニズム)</p> <p>第8回：有酸素トレーニング(有酸素能力と生活習慣病、有酸素トレーニングの条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な専門知識を幅広く身につけることが目的であるが、覚えるだけではなく、日々の健康増進で活かすように心がける。 ・履修者は80名を上限とする。 ・授業には毎回筆記用具とノートを準備すること。 ・授業中、態度不良(私語、携帯電話の使用など)の学生には退室を促すことがある。

アクティブ ラーニング	PBL、moodle の活用
評価方法	「定期試験 50%、授業内小テスト 30%、授業態度 20%、計 100%」
課題に対する フィード バック	小テストの解説、リアクションペーパーに対するコメント
指定図書	なし
参考図書	これからの健康とスポーツの科学 第4版 (KS スポーツ医科学書)
事前・ 事後学修	授業前には各テーマの内容を予習する (約 40 分)。授業後は新たに得た内容を確認し、自分で関連事項を調べて理解を深める (約 40 分)。
オフィス アワー	看護学部、1206 研究室、火曜・金曜 13:00～18:00
実務経験に 関する記述	博士 (理学)、中学校教諭一種免許 (理科、保健体育)、高等学校教諭一種免許 (理科、保健体育)、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員

科目名	健康スポーツ実践
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	身体運動（運動・スポーツ）の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、健康づくりのための身体活動の必要性とその効果を考える。また、自分の生活習慣や体力レベルから日本の健康づくり施策（健康日本21）を理解・学習する。
到達目標	4. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 5. 個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス（体育館：初回のみ着替え不要 *欠席者は教員へ個別連絡が必要）</p> <p>第 2 回：Pre 体力測定 1（質問紙法、体組成、血圧、敏捷性）</p> <p>第 3 回：Pre 体力測定 2（筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力）</p> <p>第 4 回：つもりと実際（筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較）</p> <p>第 5 回：呼吸循環と健康（有酸素運動中の呼吸数と心拍数）</p> <p>第 6 回：ロコモティブシンドローム・サルコペニア（超音波法や簡易評価法など）</p> <p>第 7 回：有酸素運動（推定心拍数から運動強度を算出）</p> <p>第 8 回：テニス（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 9 回：バスケットボール（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 10 回：バドミントン（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 11 回：バレーボール（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 12 回：卓球（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 13 回：レクリエーションスポーツ（運動時の心拍数・主観的運動強度を測定）</p> <p>第 14 回：Post 体力測定 1（Pre の測定値と比較）</p> <p>第 15 回：Post 体力測定 2（Pre の測定値と比較）・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第 1 回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第 2 回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・テニスでは屋外シューズ、それ以外では室内シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止する。 ・受講者全員が楽しく授業が行えるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、学修ポートフォリオ
評価方法	「基本技術の習得状況・達成度 10%、レポート課題 50%、授業態度 20%、機器・用具の取り扱いと準備・片付け 10%、服装 10%、計 100%」 レポートの提出期限は厳守。
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	教養としての身体運動・健康科学（東京大学身体運動科学研究室） 健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・ 事後学修	毎回の授業前には関連事項を予習する。授業後は授業で得られたデータをまとめ、レポートを作成しながら復習する（約 40 分）。
オフィス アワー	看護学部、1206 研究室、火曜・金曜 13:00～18:00
実務経験に 関する記述	博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員

科目名	スポーツ I
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、ラケットスポーツ（硬式テニス、卓球、バドミントン）を利用して段階的に運動の基礎を充実するための授業を展開する。 様々なラケットスポーツを行い、楽しみながら自己の体力と運動技術に対する理解を深める。
到達目標	6. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 7. 様々なスポーツを実施し、楽しみながら健康管理能力を養うことで、生涯スポーツの重要性を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス（体育館：初回のみ着替え不要 *欠席者は教員へ個別連絡が必要）</p> <p>第 2 回：テニス① テニス導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム</p> <p>第 3 回：テニス② ラケットティング、打法の練習、レベル別のシングルスゲーム</p> <p>第 4 回：テニス③ ダブルスのルール説明、レベル別のダブルスゲーム</p> <p>第 5 回：テニス④ テニスの実技テスト・レポート課題</p> <p>第 6 回：卓球① 卓球導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、簡易ゲーム</p> <p>第 7 回：卓球② ラケットティング、打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム</p> <p>第 8 回：卓球③ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のダブルスゲーム</p> <p>第 9 回：卓球④ ダブルスのルール説明、レベル別のダブルスゲーム</p> <p>第 10 回：卓球⑤ 卓球の実技テスト・レポート課題</p> <p>第 11 回：バドミントン① バドミントン導入のための小テスト（ルール等）、基礎練習、ゲーム</p> <p>第 12 回：バドミントン② 打法の練習、アップダウン形式のシングルスゲーム</p> <p>第 13 回：バドミントン③ トリプルのルール説明、アップダウン形式のゲーム</p> <p>第 14 回：バドミントン④ ダブルスのルール説明、アップダウン形式のゲーム</p> <p>第 15 回：バドミントン⑤ バドミントンの実技テスト・レポート課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・第 1 回に健康確認や授業の重要事項を説明（欠席者は第 2 回までに教員への個別連絡が必要） ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・テニスでは屋外シューズ、バドミントン・卓球では体育館シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止。 ・受講者全員が楽しく効果が上がるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、学修ポートフォリオ
評価方法	「基本技術の習得状況・達成度（小テスト・実技テスト）30%、レポート課題 30%、授業態度 20%、用具の取り扱いと準備・片付け 10%、服装 10%、計 100%」 再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対する フィード バック	小テストの解説、レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
参考図書	健康・フィットネスと生涯スポーツ（東海大学一般体育研究室）
事前・ 事後学修	履修前に各種目の歴史・ルール・マナーを学修し、必要となる技術や自分にとって理想的な戦術を考える（約 40 分）。授業後は問題点を確認し、次回のレベル向上につなげる（約 40 分）。
オフィス アワー	看護学部、1206 研究室、火曜・金曜 13:00～18:00
実務経験に 関する記述	博士（理学）、中学校教諭一種免許（理科、保健体育）、高等学校教諭一種免許（理科、保健体育）、NSCA 認定 CSCS、健康運動指導士、赤十字救急法救急員

科目名	スポーツⅡ
科目責任者	栗原 都
単位数他	1単位(30時間) 選択 春
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	現代社会では運動機能が低下し、生活習慣病などが増大しているほか、人とのコミュニケーションが希薄で、孤独になりやすい環境にあります。運動は、体力を高め、病気になりにくい身体をつくるだけでなく、人間関係を育み、楽しい生活を営むための要素をたくさん含んでいます。これを認識する為の知識や方法を、エクササイズを通して学習します。
到達目標	1. 様々なスポーツを体験し、それぞれのスポーツの効果と技術、楽しみ方を学ぶ。 2. スポーツを通して個人の差異を見極め、団体の中で他者と協調し運動の効果を上げる。 3. 上記を修得する中で、仲間意識を深め、人とのふれ合いの重要性を学ぶ。 4. 心身の健康を育み維持する上での運動の重要性を学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>栗原 都</p> <p>第1回：①オリエンテーション…授業で行うスポーツの内容とその目的・目標を確認する ②まずは気持ち良く体をほぐしましょう(ヨガ)</p> <p>第2回：自身の特性を知る体力チェックと雰囲気づくりのレクリエーション的運動 — チェック項目の結果から自身の強み弱みを知り、体力改善に役立てる。</p> <p>第3回：親睦を深める楽しいスポーツ①「フリスビー」 — 投げ方を知り様々な楽しみ方を学ぶ。</p> <p>第4回：親睦を深める楽しいスポーツ②「バレーンバレー」 — バレーンバレーのボールに慣れることと、チームで戦うゲーム方式で団結力を培う。</p> <p>第5回：健康を維持するための基本 ①「ウォーキングエクササイズ」②「腹式呼吸法」 — 小ボールを持って行うエクササイズで楽しくウォーク。又、酸素摂取の呼吸法で健康維持。</p> <p>第6回：筋肉に関する運動と知識 ①「ストレッチ法」 — 筋肉や腱を伸ばすことで全身のコリを解消。又、全身の関節痛(腰痛・膝痛・肩など)を予防・改善できます。</p> <p>第7回：筋肉に関する運動と知識 ②「筋力アップ法」 — 筋肉の働きはパワーアップだけでなく健康に関わることを学ぶ。</p> <p>第8回：全身の体力と仲間意識を高める運動 ①「バスケットボール・練習」 — ドリブル・パス・シュートの練習と3:3や5:5など。</p> <p>第9回：全身の体力と仲間意識を高める運動②「バスケットボール・ゲーム」 — 1ゲーム5分のゲームを行う。</p> <p>第10回：敏捷性を高める運動「バドミントン」 — 打ち合いができるまでの練習と、ダブルスゲームを行う。</p> <p>第11回：巧緻性・リズム感を養う運動①「ジャズダンス・振り付けを覚える」 — 曲を決めて振り付けるので時間内で習得し、時間外でも練習する。</p> <p>第12回：巧緻性・リズム感を養う運動②「作品を踊る」 — 4～5人で踊る。</p> <p>第13・14・15回：心の健康と持久力を養う知識と体験「ハイキング」 — ハイキングの日程は第13～15回の3回分をまとめて1日を通して行います。 “富幕山(563m)”を往復します。</p> <p>※授業では体育館シューズ・スポーツウェアを着用。アクセサリ・時計などの着用禁止。 ※全体が緊張感を持って効果を上げる授業が行えるように、自覚を持って行動してください。 他者の士気を下げたり迷惑をかけるような行動には注意しましょう。</p>

アクティブ ラーニング	実技科目です。
評価方法	授業への積極的取り組み態度 50% 協調性・他者への礼儀正しさ・リーダーシップ(統率力) 30% 実技点 20%
課題に対する フィード バック	クラブ活動やサークル等の経験、未経験による技術の差は評価の対象としません。 いかに真摯に取り組んで、自他に効果や影響をもたらしたかを重要とします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業計画に書かれた各スポーツに関する様々な情報に興味と親しみをもって学修しておくこと。使用する施設や用具の取り扱いや管理を学ぶことや、各種スポーツの持つ特性を体感したことで、授業体験後、興味や楽しさ・必要性を感じたスポーツに継続的・積極的に関わるように努める。目安時間 40 分。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健体育科教諭(中学・高校)」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	法学
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>みなさんは、法というと、何だか堅苦しくて難しい感じがして、何となく関わりたくないと思うかもしれませんが、法の知識は、みなさんが卒業後に仲間入りする「大人の社会」の常識です。</p> <p>この授業では、身近な例をとり上げながら、できるだけやさしくお話しますから、しっかり学んで、リーガル・マインド (Legal Mind) を身につけ、危機管理のできる大人になりましょう。</p> <p>前半の授業では、法とは何か、他の社会規範 (つまり、道徳や慣習、宗教等) とはどうか、裁判の仕組みはどうなっているのか、裁判の基準となる法とは何か、等々を、さらに、後半の授業では、みなさんに関係の深い、社会福祉と法、とりわけ相談援助活動と法、成年後見制度、日常生活自立支援事業、成年後見利用支援事業、権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際、等について掘り下げて考えます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学の基礎知識を習得する。 2. 法的思考に馴染む。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：法学を学ぶに当って</p> <p>第2回：法とは何か？</p> <p>第3回：社会規範と法</p> <p>第4回：裁判の仕組み</p> <p>第5回：裁判の基準：制定法、慣習法、判例法、等</p> <p>第6回：法の体系（1）近代法、公法と私法</p> <p>第7回：法の体系（2）社会法</p> <p>第8回：犯罪と法</p> <p>第9回：財産と法</p> <p>第10回：家族と法</p> <p>第11回：社会福祉と法</p> <p>第12回：相談援助活動と法</p> <p>第13回：成年後見制度</p> <p>第14回：日常生活自立支援事業と成年後見制度支援事業</p> <p>第15回：権利擁護に係る組織・団体の役割と実際、権利擁護活動の実際</p>

アクティブ ラーニング	講義科目ですから、特に行いませんが、学期末に国家試験の法学についての過去問をいくつかみんなで解いてみたいと思います。
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト等 20%で、総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代法学入門』 伊藤正巳・加藤一郎編 有斐閣双書 ・『ポケット六法』（平成 31 年度版） 宇賀克也他編 有斐閣
参考図書	・授業中に適宜紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・法学の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに、前回の授業で学んだ内容のポイントについて的小テストを行う予定ですので、復習に重点を置いて学修するようにしてください。目安時間 40 分。 ・この授業を受講するみなさんは、毎日、新聞に目を通すようにしてください。 <p>受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	日本国憲法
科目責任者	稲葉 彬
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>憲法は、国の基本法であり、国の最高法規だといわれていますが、わたしたちの日常生活にどのような関わりをもち、わたしたちの生活をどのように支えているのかを、受講生のみならずとともに掘り下げて考え、豊かで健全な人権感覚・人権意識を身につけることを目的とします。</p> <p>この授業では、まず憲法とは何か、日本国憲法で保障されている基本的人権にはどのようなものがあるのか、基本的人権を保障する統治の仕組みはどのようなになっているのか、等々を、身近な事例をとり上げながら、できるだけやさしくお話するつもりです。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的人権にはどのようなものがあり、どのようにして確立されたのかを把握する。 2. 国の統治の仕組みはどのような考えに基づいているのかをしっかりと理解する。 3. 憲法に関する通説と最高裁判所の判例の動きもフォローする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：憲法を学ぶに当って</p> <p>第 2 回：憲法とは何か？</p> <p>第 3 回：近代国家と憲法</p> <p>第 4 回：明治憲法と日本国憲法</p> <p>第 5 回：基本的人権とは何か？ それほどどのように保障されているのか？</p> <p>第 6 回：19 世紀的基本権（1）自由権〔経済活動・精神活動・身体的自由〕</p> <p>第 7 回：19 世紀的基本権（2）平等権、受益権</p> <p>第 8 回：20 世紀的基本権（1）社会権〔生存権、教育を受ける権利、労働の権利〕</p> <p>第 9 回：20 世紀的基本権（2）参政権</p> <p>第 10 回：権力の分立、立法権と国会</p> <p>第 11 回：行政権と内閣</p> <p>第 12 回：司法権と裁判所</p> <p>第 13 回：違憲立法審査権</p> <p>第 14 回：地方自治の保障</p> <p>第 15 回：平和主義と国際協調</p>

アクティブ ラーニング	講義科目のため、特にありませんが、学期末に国家試験の憲法についての過去問をいくつかみんなで解いてみたいと思います。
評価方法	定期試験 70%、課題レポート 10%、小テスト 20%で、総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての質問・要望については、毎回リアクション・ペーパーに書いてもらい、次回の授業の冒頭で回答します。 ・毎回の小テストについては、解答例を上げ、コメントします。 ・課題レポートについては、よく書けているレポートを選定し、「課題レポート選」という形で受講生に配布します。
指定図書	『憲法読本』〔第4版〕 杉原泰雄 岩波ジュニア新書 『ポケット六法』〔平成31年度版〕 宇賀克也他編 有斐閣
参考図書	授業時に適宜紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基礎知識の定着を図るために、毎回の授業の始めに前回の授業内容のポイントについての小テストを行いますので、復習に重点をおいて学修するようにしてください。目安時間 40分。 ・この授業を受講するみなさんには、毎日、新聞に目を通すことを要望します。 受講生のみなさんは、以下の二点を厳守してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には、必ず『六法』をもってくること。 ・授業後、その日のうちに復習すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	経済学
科目責任者	高口 鉄平
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>企業の経済活動は、どのような制度のもと、どのような考えに基づいておこなわれているのでしょうか。また、政府が実施する政策は、ほんとうに望ましいものなのでしょうか。</p> <p>この講義では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする経済活動や政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的、基本的な考え方を理解する。 2. 経済学の多様性を理解するとともに、経済学の限界も理解する。 3. 身の回りの事象を経済学の観点から考察できるようにする。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : オリエンテーション</p> <p>第2回 : 経済学とはなんだろうか</p> <p>第3回 : ミクロ経済学① : 市場、資源配分の効率性</p> <p>第4回 : ミクロ経済学② : 完全競争市場、市場の失敗</p> <p>第5回 : ミクロ経済学③ : 生産者の理論、消費者の理論</p> <p>第6回 : マクロ経済学① : 家計の消費行動、企業の投資行動</p> <p>第7回 : マクロ経済学② : GDP の決定</p> <p>第8回 : マクロ経済学③ : 財政政策と金融政策</p> <p>第9回 : 情報通信経済学① : 財としての情報</p> <p>第10回 : 情報通信経済学② : ネットワークの特性</p> <p>第11回 : 情報通信経済学③ : 情報通信産業の構造・ビジネス</p> <p>第12回 : 経済政策の考え方</p> <p>第13回 : 行動経済学</p> <p>第14回 : 経済学に対する批判</p> <p>第15回 : まとめ</p> <p>上記の内容、進行を基本としますが、受講者の関心、希望等に応じて、適宜調整します。</p>

アクティブ ラーニング	何回かの講義で、理解を深めるためグループ学習等を取り入れる予定です。
評価方法	定期試験（筆記試験）80%、講義中の取り組み（受講姿勢及びリアクションペーパー等）20%、 で評価します。
課題に対する フィード バック	定期的コメントを求める場合がありますが、その場合は次の講義時に講義内で紹介、解説し ます。
指定図書	ありません。参考書等は、適宜、講義中に指示します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	講義後、講義で示した考え方をを使って、経済に関するニュースを週に一回 40 分程度経済学的に 検討してみてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は中央省庁（総務省）での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目 です。

科目名	教育学
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「声明の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>現代の教育について、哲学、歴史、国際比較、制度、実践、教育問題等の視点から多角的に考察し、理解を深める。</p> <p>教育の歴史、教育の思想、現代の具体的な教育実践の検討を通して、教育とは何か、学びとは何かを考察する。</p> <p>現代の諸外国とわが国で展開される「教育改革」の動向と社会変化の方向性を概観し、これからの社会で求められる新しい教育、学びを考える。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育とはどういうものかについて、自分の言葉で説明できる。 2. 古代・中世・近世・近代・現代期の教育の特徴を説明できる。 3. 教えるということ、教師の役割について理解を深め、自分の考えを説明できる。 4. 教育病理について理解を深め、原因と問題解決の方法を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：本授業の全体的なガイダンス 教育とは何か？</p> <p>第 2 回 教育とは何か？教育学者が論じる教育とは？</p> <p>第 3 回 教育の歴史 ①古代における教育：プラトンのアカデメイア</p> <p>第 4 回 教育の歴史 ②中世における教育：宗教と学校</p> <p>第 5 回 教育の歴史 ③近世における教育：子どもの発見</p> <p>第 6 回 教育の歴史 ③近代における教育：産業革命と教育</p> <p>第 7 回 教育の歴史④近代における教育：国民国家と教育</p> <p>第 8 回 教育の歴史⑤：現代における教育：福祉国家と公教育制度</p> <p>第 9 回 専門職としての教師の役割とは：理想の教師像</p> <p>第 10 回 専門職としての教師の役割とは：教師の問題</p> <p>第 11 回 専門職としての教師の役割とは：教えるということ</p> <p>第 12 回 教育病理：いじめ・不登校・学級崩壊・暴力行為</p> <p>第 13 回 教育病理 2：学校現場の対応策と教育改革</p> <p>第 14 回 学校・地域の協働による教育改革・チーム学校とコミュニティースクール</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、キーワードレポート、復習テスト
評価方法	授業内評価点 60%(小テスト・提出課題 40%・授業態度 20%)と 最終テスト 40%で総合評価する。キーワードレポートは、ルーブリックで評価を行う。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート・リアクションペーパーの質問に対して回答を提示する
指定図書	なし。授業時にテキスト・プリントを配布する。
参考図書	黒崎勲、大田直子『学校をよりよく理解するための教育学1 教育の原理』学事出版、2005年
事前・ 事後学修	事前・事後学修として、毎回配布するテキスト・プリントを最低3回熟読して来てください。提出課題の修正を次回までにしっかりやってください。目安時間 40分。
オフィス アワー	月曜日 2 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「中学校教諭と高校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会学
科目責任者	尾形 泰伸
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	社会学は、世の中に流通している「常識」をたんに寄せ集めたものではありません。むしろ、そうした現代社会における「常識」がいかにか社会的に形成されてきたものであるかを暴露するという意味で、社会学は「脱常識」こそを特長とするとさえ言えます。生、死、健康、病、老い、障害、子育て等々の諸事象ももちろん社会と不可分であり、本講ではそのつながりを橋渡しする方法として社会学の考え方や研究例を取り上げていきます。
到達目標	1. さまざまな常識を社会的な構成物として捉え返すことができる 2. 社会学の基礎的諸概念を用いて諸現象を分析できる 3. 現代社会が保健医療福祉についていかなる課題を抱えているかを理解している
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：社会学とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学とはどのような学であるか、他の社会科学との違いと特徴を理解する。 <p>第2回：社会学のまなざしとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会学を定義するうえで不可欠な「ものの見方」を理解する。 <p>第3回：社会をいかにとらえるか（1）：社会的行為の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェーバーの研究事例を交えながら、行為を基点とする社会学の方法を学ぶ。 <p>第4回：社会をいかにとらえるか（2）：社会集団を取り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> デュルケムの研究事例を交えながら、集団を捉えるための社会学の方法を学ぶ。 <p>第5回：社会をいかにとらえるか（3）：社会関係に分解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ジンメルの研究事例を交えながら、関係から考える社会学の方法を学ぶ。 <p>第6回：社会集団と組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会集団と組織に関する諸概念をもとに、近代の時代特性を理解する。 <p>第7回：役割と演技</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会生活を役割と演技という観点から捉え返す。 <p>第8回：社会問題の捉え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会問題の捉え方と社会的ジレンマについて理解する。 <p>第9回：自由・管理・統制</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由と管理・統制の歴史的変化とあり方を考察する。 <p>第10回：生活の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たち人間の生および生活が、いかに変化し、現在いかなる地点にあるかを理解する。 <p>第11回：家族の捉え方、家族の現在</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族をめぐる概念と捉え方を理解し、現代における家族の変容や実態を考察する。 <p>第12回：現代社会とジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別を社会的次元から捉え返し、現代社会における性別にかかる諸問題を理解する。 <p>第13回：現代社会と社会階層・移動</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会階層と社会移動など、現代社会が抱える社会経済的な実態について考察する。 <p>第14回：現代社会と社会変動</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちが生きる現代社会がいかなる社会変動に直面しているかを考察する。 <p>第15回：日常生活と社会学</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉を踏まえた「日常生活」とは何かを理解する。

アクティブラーニング	原則として講義形式で実施する。
評価方法	定期試験 70%・・・社会的な「ものの見方」の修得度、そのための概念や用語の理解度により評価する。／リアクションペーパー30%・・・記載内容をもとに授業への取組みとして評価する。
課題に対するフィードバック	定期試験は、実施後（再試験終了後）moodleにて解答例を提示する。リアクションペーパーについては、抜粋の上でコメントを付してまとめたプリントを配布する。
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	購入は義務ではないが、次の参考文献を元に自主的な学習を推奨する。『増補新版 社会学感覚』野村一夫、文化書房博文社／『社会学入門一歩前』若林幹夫、NTT 出版／『社会学への招待』P. L. バーガー、新思索社／『社会学』奥井智之、東京大学出版会／『社会学の力』友枝敏雄ほか編、有斐閣
事前・事後学習	事前学習：次回授業で取り上げられるプリントの空欄箇所を、参考書やウェブで調べておく。（20分程度）／事後学習：課された題に関して考察を加えたリアクションペーパーを提出する。（20分程度）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	現代コミュニティ論
科目責任者	尾形 泰伸
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本講では、社会学の理論・方法論をベースとしながら、コミュニティに関連する内容を掘り下げて検討していきます。コミュニティ理解のための基礎概念・理論を押さえたうえで、コミュニティが大きな歴史的社会的変動過程のなかで、現在いかなる地点にあり、いかなる動向を呈しているか、また、いかなる課題に直面しているかを考察します。
到達目標	1. 地域社会の現状、及び現代的課題を理解している。 2. コミュニティが成立するための論理的要件を示すことができる 3. ソーシャルワーク/ケアワークとコミュニティとの結びつきを理解している。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：近現代社会におけるコミュニティの意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるコミュニティの意義と関連概念を理解する <p>第2回：社会の変化とコミュニティ概念の再定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ概念の広がりを理解する <p>第3回：地域コミュニティへの着目と転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティをめぐる動きの転換について、その要因と変化を理解する <p>第4回：コミュニティと公共性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共性という視点から地域やネット上のコミュニティを考察する <p>第5回：コミュニティに関わるアクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、企業、NPO、団体・法人等のアクターとジレンマを考える <p>第6回：コミュニティと社会的排除（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困及び剥奪といった概念との異同から社会的排除の考え方を理解する <p>第7回：コミュニティと社会的排除（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的排除がもたらす諸問題と排除される人びとについて考察する <p>第8回：コミュニティと社会的包摂（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的包摂とは何か、そのためのあり方を考察する <p>第9回：コミュニティが抱える課題（1）－家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を切り口としてコミュニティの課題を考察する <p>第10回：コミュニティが抱える課題（2）－文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化を切り口としてコミュニティの課題を考察する <p>第11回：コミュニティが抱える課題（3）－ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOや地域組織の動きと課題を考察する <p>第12回：コミュニティの成り立ちを問い直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を用いてコミュニティの成り立ちを考える <p>第13回：コミュニティのニーズを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティのニーズを捉える調査や企画のあり方を考える <p>第14回：いかにコミュニティを構想するか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握をふまえて、いかにコミュニティを構想・計画するかを考える <p>第15回：まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティをめぐるこれまでの内容をふまえて、専門職者としてのあり方を考える

アクティブラーニング	原則として講義形式で実施する。
評価方法	定期試験 70%・・・コミュニティの諸問題を十分に理解できているか、そのための概念や用語を修得しているかにより評価する。／リアクションペーパー30%・・・記載内容をもとに授業への取り組みとして評価する。
課題に対するフィードバック	定期試験は、実施後（再試験終了後）moodle にて解答例を提示する。リアクションペーパーについては、抜粋の上でコメントを付してまとめたプリントを配布する。
指定図書	特に指定しない（適宜プリントを配布する）。
参考図書	購入は義務ではないが、次の参考文献のいずれかにより自主的な学習を推奨する。『地域の社会学』森岡清志編、有斐閣／『社会的排除』岩田正美、有斐閣／『現代コミュニティとは何か』船津衛・浅川達人編、恒星社厚生閣／『転げ落ちない社会』宮本太郎編、勁草書房／『公共性』斎藤純一、岩波書店
事前・事後学修	事前学習：次回授業で取り上げられるプリントの空欄箇所を、参考書やウェブで調べておく。（20分程度）／事後学習：課された題に関して考察を加えたリアクションペーパーを提出する。（20分程度）
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし

科目名	生物学	
科目責任者	熊澤 武志	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春	
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	私達の生命活動は、巧妙なメカニズムでコントロールされています。この生命活動の基礎について学ぶのが生物学です。この授業ではヒトに関連する生物学を中心に、生命に関する知識と関心を深めることを目的とします。授業の前半（第1回～第7回）は、生物学の基本的な知識について講義を行います。後半（第9回～15回）は基礎から専門へとつながる発展的な知識を、それぞれの分野の専門教員がオムニバス形式でわかりやすく解説します。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞のはたらきについて説明できる。 2. 遺伝子のはたらきとしくみについて説明できる。 3. 生命活動を調節するしくみについて説明できる。 4. 免疫のしくみについて説明できる。 5. 感覚のしくみについて説明できる。 6. 生命活動とエネルギーについて説明できる。 7. 血液のはたらきについて説明できる。 8. 生殖・遺伝・誕生のしくみについて説明できる。 9. 生物学に関連する先端技術について関心を高めることができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生命とは何か</p> <p>第 2 回：細胞－生命の基本単位</p> <p>第 3 回：遺伝子－生命の設計図</p> <p>第 4 回：生命活動を支えるしくみ</p> <p>第 5 回：生命活動を調節するしくみ～神経</p> <p>第 6 回：生命活動を調節するしくみ～ホルモン</p> <p>第 7 回：生命を守るしくみ</p> <p>第 8 回：中間のまとめとテスト</p> <p>第 9 回：感覚のしくみ</p> <p>第10 回：生殖のしくみ</p> <p>第11 回：遺伝のしくみ</p> <p>第12 回：運動とエネルギーのしくみ</p> <p>第13 回：血液のしくみ</p> <p>第14 回：性周期と誕生のしくみ</p> <p>第15 回：生物学の先端テクノロジー・まとめ</p> <p>本科目は高校で生物基礎を履修しなかった学生、生物の勉強が苦手だった学生を履修対象とします。</p>	<p><担当教員名></p> <p>熊澤 武志</p> <p>安田 智洋</p> <p>ゲストスピーカー（森 一恵）</p> <p>久保田 君枝</p> <p>熊澤 武志</p>

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリアクションペーパーの作成などに取り組んでもらいます。
評価方法	中間テスト (40%)、定期試験 (40%)、平常点 (20%) を総合的に評価します。平常点には小テスト、リアクションペーパー、レポート、授業への取り組みなどが含まれます。
課題に対する フィード バック	小テストは採点後に返却し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オフィス アワー	熊澤武志 (看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	

科目名	日本語表現法
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と倫理的表現力を身につけている。
科目概要	日本語は、世界で最も難しい言語の一つである。それだけに、とても面白い言語だということも理解してほしい。ただし、やはり難しい言語であるので、しっかりした文法や決まりも理解しなければならない。それを理解した上で、説明文、レポート、小論文などの書き方を学び、学業において困ることがないようにすることを目的としたい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の特殊性について理解する 2. 日本語の基礎的な表現を理解する 3. 敬語や手紙の文章を学び、使いこなせるようにする 4. レポート・論文の書き方について学び、活用できるようにする
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：日本語表現法概説1<日本語とはどんな言語か、何を学ぶのか></p> <p>第2回：日本語表現法概説2<日本語とはどんな言葉か2></p> <p>第3回：日本語の特徴<標準語と方言、書き言葉と話し言葉等></p> <p>第4回：日本語の言いまわしく日本語独特の表現・適切な表現></p> <p>第5回：主語と述語1<助詞「は」と「が」></p> <p>第6回：主語と述語2<助詞「が」と「を」、「も」・助動詞></p> <p>第7回：文章（文と文のつながり）1<文の接続と句読点></p> <p>第8回：文章（文と文のつながり）2<文の構造と悪文></p> <p>第9回：敬語1<敬語とは></p> <p>第10回：敬語2<敬語用法の実際></p> <p>第11回：手紙を書く<手紙の書き方と敬語></p> <p>第12回：文章要約<文章を要約する></p> <p>第13回：説明文<説明文を書く></p> <p>第14回：小論文<レポート・小論文を書く></p> <p>第15回：説明文・小論文の解説<説明文・小論文の解説></p>

アクティブ ラーニング	毎回、授業の最後に課題を行い、提出してもらう。
評価方法	毎回の提出物 20%、筆記試験 80%、計 100%。 なお、再試験は行わない。
課題に対する フィード バック	毎回の課題に対するフィードバックは、次の授業で行う。
指定図書	テキストとして、毎回プリントを配布する。
参考図書	国語辞典（これまで使ってきたもの）または電子辞書があると便利かもしれない（必須ではない）。
事前・ 事後学修	課題に対するフィードバックを参考に、必ず復習をすること。目安時間 40 分。
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	

科目名	情報処理A	※看護学部・社会福祉学部
科目責任者	津森 伸一	
単位数他	1単位(30時間) 看護学部・社会福祉学部 選択 春	
DP番号と科目領域	DP3 教養基礎	
科目の位置付	様々な価値観や立場, 意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている.	
科目概要	<p>現在では, 業種や職種を問わず, あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また, スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり, ネット上のマナーや危機対策についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では, パソコンの基本的な操作と簡単な文書作成(Word, PowerPoint), 併せて情報端末やインターネットを正しく安全に利用するためのマナーや利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Bとの同時履修は不可</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. OS (Windows) の基本操作ができる。 2. 電子メールやWWWなどのインターネットサービスを利用することができる。 3. 日本語ワープロソフトによる基本的な文書作成ができる。 4. プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成とプレゼンテーションができる。 5. ネットの危険性やマナーに関する知識を持ち正しく安全に利用することができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>津森 伸一, 隆 朋也</p> <p>第1回 ガイダンス, パソコンの基本操作, タッチタイピング</p> <p>第2回 フォルダとファイルの管理と操作</p> <p>第3回 Gmail(電子メール)・Google ドライブの基本操作</p> <p>第4回 Web ブラウザの操作方法と Web ページの閲覧</p> <p>第5回 Word, IME の基本操作 / SNS の注意点 - 個人情報の管理, プライバシー</p> <p>第6回 文書の入力と印刷 / SNS の注意点 - ネットでの発信</p> <p>第7回 書式設定, 文字修飾 / SNS の注意点 - 出会い系</p> <p>第8回 表の活用 / ネット詐欺 - ネットで送金</p> <p>第9回 PowerPoint の基本操作, スライドの作成 / 情報の管理 - パスワード</p> <p>第10回 画像の挿入と編集 / 情報の管理 - USB メモリ等の利用</p> <p>第11回 図形機能 / 著作と利用</p> <p>第12回 画面切り替え効果とアニメーションの基礎</p> <p>第13回 アニメーションの応用</p> <p>第14回 ビデオ/オーディオの取り込み, ビデオの作成</p> <p>第15回 プレゼンテーションスライド作成演習</p>	

アクティブ ラーニング	学習管理システムを用いた教材提示や課題の授受を行う。
評価方法	課題の提出をもって100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭や学習管理システムのメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	実教出版編集部 編『30時間でマスター Office2016』, 実教出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。事後学修として、授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること。目安時間40分。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：毎週木曜日 9時～12時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	情報処理A	※リハビリテーション学部
科目責任者	津森 伸一	
単位数他	1単位 (30時間) リハビリテーション学部 選択 春	
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎	
科目の位置付	様々な価値観や立場, 意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている.	
科目概要	<p>現在では, 業種や職種を問わず, あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また, スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり, ネット上のマナーや危機対策についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では, パソコンの基本的な操作と簡単な文書作成 (Word, PowerPoint), 併せて情報端末やインターネットを正しく安全に利用するためのマナーや利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Bとの同時履修は不可</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本的な設定・管理と OS (Windows) の基本操作ができる。 2. 電子メールや WWW などのインターネットサービスを利用することができる。 3. 日本語ワープロソフトによる基本的な文書作成ができる。 4. プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成とプレゼンテーションができる。 5. ネットの危険性やマナーに関する知識を持ち正しく安全に利用することができる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 ガイダンス,</p> <p>第 2 回 情報の管理, ネットの危険性</p> <p>第 3 回 ネットへの参加と責任, 著作と利用</p> <p>第 4 回 パソコンの基本設定, ソフトウェアの導入, LMS の操作方法</p> <p>第 5 回 Word, IME の基本操作, タッチタイピング</p> <p>第 6 回 文書の入力と印刷</p> <p>第 7 回 書式設定, 文字修飾</p> <p>第 8 回 表の活用</p> <p>第 9 回 PowerPoint の基本操作, スライドの作成</p> <p>第 10 回 画像の挿入と編集</p> <p>第 11 回 図形機能</p> <p>第 12 回 画面切り替え効果とアニメーションの基礎</p> <p>第 13 回 アニメーションの応用</p> <p>第 14 回 ビデオ/オーディオの取り込み, ビデオの作成</p> <p>第 15 回 プレゼンテーションスライド作成演習</p>	

アクティブ ラーニング	各自が持参するパソコンを用いて授業を行う。また、教材提示や課題の授受は学習管理システムを用いて行う。
評価方法	課題の提出をもって100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭や学習管理システムのメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	実教出版編集部 編『30時間でマスター Office2016』, 実教出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。事後学修として、授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみること。目安時間40分。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9時～12時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	情報処理B
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1単位(30時間) 選択 春・秋
DP番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>現在では、業種や職種を問わず、あらゆる場面でパソコンの利活用に関するスキルが要求される。また、スマートフォンの普及により児童から高齢者までの幅広い層が情報機器を利用するようになり、それらの機器やそこで扱う情報の安全管理についても一定の知識やスキルの修得が求められる。本科目では、パソコンを用いたデータ処理(Excel)のための基本的技能、併せて情報を安全に管理・活用するための利用方法を修得する。</p> <p>※同時期に開講される情報処理Aとの同時履修は不可</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフトを用いて数値データを適切に集計・処理することができる。 2. 表計算ソフトでグラフを作成し、データを判りやすい形式で表現することができる。 3. ファイルなどの情報を安全に管理し、紛失や漏洩などの危険性に備えることができる。 4. 情報機器の危険性に関する知識を持ち、正しく安全に利用することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>隆 朋也、津森 伸一</p> <p>第1回：ガイダンス、Excelの基本操作、データの入力</p> <p>第2回：基本的なワークシート編集 / Officeファイルのパスワード保護</p> <p>第3回：関数の利用</p> <p>第4回：相対参照・絶対参照</p> <p>第5回：基本的なグラフの作成 / ファイルやフォルダの暗号化</p> <p>第6回：やや高度なグラフの作成</p> <p>第7回：IF関数による条件判定</p> <p>第8回：複号条件による判定 / スマートフォンのセキュリティ対策</p> <p>第9回：関数を利用した検索と順位づけ</p> <p>第10回：関数を利用した統計計算</p> <p>第11回：データの検索と置換、条件付き書式の活用</p> <p>第12回：データの並び替えとフィルター / パソコンのセキュリティ対策</p> <p>第13回：表やグラフのWord文書への貼り付け</p> <p>第14回：Google フォームの活用とExcel へのエクスポート</p> <p>第15回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学習管理システムを用いた教材提示や課題の授受を行う。
評価方法	課題の提出をもって100%評価する。なお、再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	口頭や学習管理システムのメッセージ機能などを用いて行う。
指定図書	『30時間でマスター Office2016』実教出版編集部編、実教出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として、次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと。事後学修として、授業中に実施しなかった教科書の演習問題を解いてみる。目安時間40分。
オフィス アワー	科目責任者（看護学部：隆）の研究室は1605です。 基本的に木曜日15時～17時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「ソフトウェア開発」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	英語 I	※総合英語
科目責任者	渥美 陽子	
単位数他	1 単位(30 時間) 看護学部・リハビリテーション学部・社会福祉学部必修 1 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎	
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。	
科目概要	本科目では、大学レベルでの英語学修への導入として効果的な英語コミュニケーションを学ぶ。自信を持って口頭での意思伝達を図ることのできる学習者の養成が目的である。スピーキングとリスニングのスキルを重視した 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に育成する。人との出会い、旅行、文化等のテーマで日常的に使用される英語を聞き、テキスト、音声モデルに基づいて会話練習を行う。	
到達目標	<p>本科目の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とする：</p> <p>Upon successful completion of the course, students are expected to be able to do the following things in English:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Fill in forms with personal information such as name, age, date of birth, and nationality. ● Write short, simple notes or messages about familiar topics. ● Catch the main point in short, clear, simple spoken messages and announcements. ● Understand simple spoken instructions and follow short, simple directions. ● Make introductions and use basic greetings. ● Participate in short conversations in routine contexts on topics of interest. ● Give a 1-2 minute speech or presentation on a prepared topic. 	
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、パターソン・ドナルド、マククリーン・リチャード、土江綾、ギブ・ショーン、他</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下は C クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。</p> <p>第 1 回：Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する) 第 2 回：People (Unit 1) 第 3 回：People (Unit 1) 第 4 回：Behavior (Unit 2) 第 5 回：Behavior (Unit 2) 第 6 回：Shopping (Unit 3) 第 7 回：Shopping (Unit 3) 第 8 回：Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト) 第 9 回：Vacation (Unit 4) 第 10 回：Vacation (Unit 4) 第 11 回：Heroes (Unit 5) 第 12 回：Heroes (Unit 5) 第 13 回：The Mind (Unit 6) 第 14 回：The Mind (Unit 6) 第 15 回：Group Presentation, Wrap up (グループ発表、まとめ)</p>	

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Google Classroom activities ・グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 30% クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、 最終テスト 30%
課題に対す るフィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	A~C クラス = 『World Link: 1』 (National Geographic) D~E クラス = 『World Link: Intro』 (National Geographic)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Google Classroom segment, Paper reports. About 30 minutes to one hour per week. Google Classroom によるリスニング課題、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分~1 時 間、事後学修 30 分~1 時間程度。
オフィス アワー	渥美陽子 (看護学部) : 火曜日 12:00-14:00、金曜日 12:00-14:00、研究室 : 3413 号室 パターソン・ドナルド (社会福祉学部) : 金曜日 13:00-15:00、研究室 : 5704 号室
実務経験に 関する記述	

科目名	英語 II
科目責任者	パターソン・ドナルド
単位数他	1 単位数 (30 時間数) 看護学部・リハビリテーション学部・社会福祉学部必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本科目の目的は、学生のコミュニケーション能力をさらに向上させ、より自律的な学習者を育成することである。英語 I の学修内容を踏まえ、読解力、文章力、語彙力を重視した 4 技能（聞く、話す、読む、書く）を総合的に育成する。読解速度の向上を目指し、集中的に大量の文章を読みこなす力を身につける。短いメッセージ、電子メール、申請書類、および短い段落に必要なライティングスキルを練習する。また、中級から上級のクラスでは TOEIC の試験対策も行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初級クラスでは、基本的な英語の語彙と文章構造を理解し、日常的な内容について話された／書かれた文章を英語のまま理解し、簡単な質問に答えることができる。内容に沿った質問をすることができる。ロールプレイをスムーズに行うことができる。 2. 中級以上のクラスでは TOEIC の教材を活用し、より実用的で幅広い英語運用能力の修得を目指す。様々な意見、立場、価値観の違いを考慮した上で、適切な質問を投げかけ、自分の意見を簡潔に伝えることができる。TOEIC500 点以上の取得を目指す。 3. 個々の学修者に合わせた多読活動を実施し、レベルごとに設定する語数の達成を目指す。 4. 友人に対して、分かりやすい内容で E メールや SNS 等で挨拶文が書ける。 5. 推薦状、および自己紹介文が書ける。 6. 専門分野での英文ライティングに関する基礎知識を養う 7. パラグラフの構成について理解し、実際に書く事ができる 8. 創造的な文章、および日常的な内容の英文でコミュニケーションを取ることができる
授業計画	<p><担当教員名> パターソン・ドナルド、渥美陽子、マクリーン・リチャード、土江綾、ギブ・ショーン、他</p> <p><授業内容・テーマ等> 以下は C クラスの例である。テキストは、クラス分け決定後に購入すること。</p> <p>第 1 回：Introduction to the course, Self-introductions (履修説明、自己紹介する)</p> <p>第 2 回：City Life (Unit 7)</p> <p>第 3 回：City Life (Unit 7)</p> <p>第 4 回：All About You (Unit 8)</p> <p>第 5 回：All About You (Unit 8)</p> <p>第 6 回：Change (Unit 9)</p> <p>第 7 回：Change (Unit 9)</p> <p>第 8 回：Review & Mid-Term Test (まとめ、中間テスト)</p> <p>第 9 回：Health (Unit 10)</p> <p>第 10 回：Health (Unit 10)</p> <p>第 11 回：Achievement (Unit 11)</p> <p>第 12 回：Achievement (Unit 11)</p> <p>第 13 回：At the Movies (Unit 12)</p> <p>第 14 回：At the Movies (Unit 12)</p> <p>第 15 回：Group Presentation, Wrap up (グループ発表、まとめ)</p>

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Google Classroom activities ・グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用
評価方法	Class Score (Assignments, Participation): 10%; Short Tests: 20%; Presentations: 20%; Mid-Term Tests: 20%; Final Test: 30% クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、小テスト 20%、発表 20%、中間テスト 20%、 最終テスト 30% なお、TOEIC IP 受験者には、試験結果によって加算点を与える (ただし、受験希望者が少ない 時は TOEIC IP が実施できない場合もある)。
課題に対す るフィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	A～C クラス = 『World Link: 1』 (National Geographic) D～E クラス = 『World Link: Intro』 (National Geographic)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Google Classroom segment, Paper reports. About 30 minutes to one hour per week. Google Classroom による課題、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オフィス アワー	パターソン・ドナルド (社会福祉学部) : 金曜日 13:00-15:00、研究室 : 5704 号室 渥美陽子 (看護学部) : 火曜日 12:00-14:00、金曜日 12:00-14:00、研究室 : 3413 号室
実務経験に 関する記述	

科目名	外国語
単位数他	1 単位 (30 時間)
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本学の教育課程にある外国語科目（英語Ⅰ、英語Ⅱ、中国語）以外の外国語科目を、放送大学で履修し習得した場合には、本科目の単位として認定します。
到達目標	—
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>2019 年度に放送大学で開講する科目でも、この科目で単位認定できるのは定期試験期間が重複しない科目のみです。詳細は、7 月（秋 Semester 対象）、1 月（次年度春 Semester 対象）に共通科目掲示板に掲載する募集チラシをご確認ください。</p>

アクティブ ラーニング	—
評価方法	—
課題に対するフィード バック	—
指定図書	—
参考図書	—
事前・ 事後学修	—
オフィス アワー	—
実務経験に 関する記述	—

科目名	海外研修
科目責任者	MacLean, Richard (マックリン・リチャード)
単位数他	1単位 (30時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	海外で諸文化等に触れることで、その国の保健医療福祉事情を知り、異文化や価値観の多様性などの学びを通して、グローバルな視野を養うことを目指します。さらに、保健・医療・福祉の視点で、異なる専門職を目指す学生との交流を通し多職種連携の意義について考えます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な視野で保健医療福祉を考えるきっかけとする。 2. 保健・医療、看護、社会福祉の問題に関するグローバルな視点に立った思考や活動へのきっかけとする。 3. 研修を行う国の生活や文化に直接触れることで、人間・社会・環境への理解を深める。 4. 研修を行う国の人々とのコミュニケーションをとることができる。
授業計画	<p><担当教員名> マックリン・リチャード、パターソン、渥美陽子、他</p> <p><授業内容・テーマ等> 本学交流協定締結校であるナンヤン理工学院（シンガポール研修）、第三軍医大学（中国研修）、カトリックサンジ大学（韓国研修）を拠点に行う研修に参加するために事前研修・研修前準備を行い、研修後に課題レポートを提出する。</p> <p>I. 事前研修 研修を行う国の概要や保健医療福祉の現状、教育制度等について学習する。 研修を行う国の文化・習慣について学習する。 研修先施設の概要について調べる。 英語による自己紹介やコミュニケーションのとり方を練習する。 国際人に求められるマナーや態度を理解する。</p> <p>II. 研修前準備（研修に必要な書類の作成） 渡航手続き書類を準備する。 研修参加目的や自己紹介等の文書を英語で作成する。</p> <p>III. 海外研修 1. 研修先 シンガポール研修（受け入れ機関 ナンヤン理工学院） 中国研修（受け入れ機関 第三軍医大学） 韓国研修（受け入れ機関 カトリックサンジ大学） 2. 期間 8日間</p> <p>IV. 課題レポートの作成 研修の内容をレポートにまとめ、提出する。 海外研修報告会に参加する。</p>

アクティブ ラーニング	Group learning, Role-plays, Google Classroom activities ・グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用
評価方法	事前研修 30%、海外研修時の態度・知識の評価 40%、課題レポート 30%
課題に対す るフィード バック	Explanation of tests, and comments on presentations and reports will be provided. 小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント
指定図書	None
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修は、自国の保健・医療・福祉の事情について説明できることや研修先について事前に 調べることが必要です。事後学修は、研修内容をこれからの保健・医療・福祉実践に活用でき るように整理しておくことです
オフィス アワー	To be posted.
実務経験に 関する記述	

科目名	ブラジル文化と言語
科目責任者	高阪 香津美
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	本授業では、浜松市に数多く暮らすブラジル人を中心とした日本に暮らす外国人が抱える課題を把握するとともに、その課題の解決策を考える。また、ブラジル人の母語であるポルトガル語を学習します。そして、ブラジル人住民が日常生活を送る上でコミュニケーションに困難を抱えないよう、基本的なポルトガル語の語彙や表現を身につけることをねらいとします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活上の様々な場面で外国人住民が抱える言葉の問題について理解すること。 2. 日本でポルトガル語を学習することの意義について意識すること。 3. 言語だけでなく、ブラジルの文化的側面についても把握すること。 4. ポルトガル語の基本的な文法知識を身につけ、簡単な意思疎通ができること。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：授業の進め方・評価に関する説明、ブラジルに渡った日本人移民</p> <p>第2回：日本に暮らすブラジル人の数と多文化共生</p> <p>第3回：外国人とことば</p> <p>第4回：外国人と医療</p> <p>第5回：外国人と教育</p> <p>第6回：やさしい日本語、ポルトガル語を学ぶ意義、基本的なあいさつ表現（1）</p> <p>第7回：基本的なあいさつ表現（2）、アルファベットの読み方</p> <p>第8回：名前の尋ね方と答え方、ブラジル人に多い名前、ポルトガル語特有の発音のルール（1）</p> <p>第9回：ポルトガル語特有の発音のルール（2）、アクセントの位置、ブラジル音楽</p> <p>第10回：ser 動詞の活用と用法、職業、出身、国籍、趣味、婚姻関係の尋ね方と答え方</p> <p>第11回：人を表す基本的な形容詞、指示詞、所有詞、親族名称の尋ね方と答え方</p> <p>第12回：数字（0～50）、日付、誕生日、年齢の尋ね方と答え方</p> <p>第13回：曜日、時刻、電話番号の尋ね方と答え方</p> <p>第14回：estar 動詞を用いて自分や身の周りの人々の体や心の状態の表現</p> <p>第15回：今学期の復習</p>

アクティブ ラーニング	ペアワーク、ロールプレイ
評価方法	小テスト 50% (毎回、確認の小テストを実施)、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	小テストの返却、解説
指定図書	なし
参考図書	兼安シルビア典子 (2014) 『Descobrimo o Brasil ブラジルを発見!』 同学社
事前・ 事後学修	事前学修 (15分) : 次回、授業で取り上げる学習内容を読み、理解を試みる。わからないところがあれば、何がわからないのかが自分でわかるようにしておくこと。 事後学修 (25分) : 授業で扱った学習内容に関する課題を行うことを通し、理解の定着をはかること。また、毎回、授業の最初に小テストを実施するため、授業で習った内容についてよく復習しておくこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	現代の国際社会
科目責任者	馬場 孝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春・秋
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「現代の国際社会」の諸側面に、国際関係論と国際関係史の二つの角度からアプローチする授業です。前半が理論編、後半が歴史編です。前半では社会現象をどのように捉えるかというツールのいくつかを紹介し、国際社会の諸現象の分析を行います。後半は簡単に読みやすいテキストを手がかりに、資料、映像、講義で補いつつ、第2次大戦後の国際社会の流れをつかむことを目標とします。
到達目標	1. 国際社会をとらえる理論的なアプローチの基本を理解する 2. 第2次世界大戦以後の国際関係の大きな流れの大筋をつかむ 3. 現代の国際社会が直面する課題について関心を持つ
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p><理論編></p> <p>第1回：国際社会へのアプローチ-1 機能分析 第2回：国際社会へのアプローチ-2 分析のレベル 第3回：世界システム論の射程 第4回：民族的・文化的偏見の構造 第5回：ゲームの理論の概略と国際関係 第6回：ゲームの理論の適用事例：朝鮮半島情勢</p> <p><歴史編></p> <p>第7回：現代はどのような時代か？ テキストの導入 1章 第8回：冷戦の起源 2章、3章、4章 第9回：冷戦のアジアへの波及 5章、6章 第10回：パレスチナ問題 7章 キューバ危機 8章 第11回：激動の中国 文化大革命から改革・開放へ：9章、14章 第12回：インドシナ戦争 10章、11章 第13回：冷戦の終結とソビエト連邦の崩壊：テキスト12章、13章 第14回：相互依存の深化 15章、16章 第15回：統合と分裂の世界：17,18章</p>

アクティブ ラーニング	全体的に講義においてはグループ・ディスカッションを一部採用する。理論編では「国際社会の特色をどのように捉えるか」「ゲームの理論の体験」の2回において海外の授業（国際関係論）で紹介されている方法を試みる。
評価方法	授業への参加態様 10%、小テストを含む課題の提出 10%、筆記試験 80%（筆記試験の問題の一部をレポートの提出を持って代替する選択肢を準備する予定）
課題に対する フィード バック	授業中の課題、小テストの回答、ディスカッションへのコメントはすべて授業中に行う。
指定図書	池上彰『そうだったのか、現代史』集英社文庫、2007年。
参考図書	授業中に指示する
事前・ 事後学修	「理論編」では配布資料の事前、事後の講読ならびに「歴史編」開始時までにテキストを一読しておくことを課題とする。「歴史編」では進行に応じて小テストを随時行う。1回の授業あたり40分を目安とする。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	無し

科目名	文化人類学
科目責任者	佐藤 弘明
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	ともすれば私たちは自らの社会が世界の中心と考えたがる。しかし、人類ほど多様な自然環境、多様な社会文化的環境下で生活する生物はいない。国際化が進む現在、自らの社会をこのような相対的視座から理解することは必須である。本科目は人類の多様な生活様式・社会組織・制度・医療等の例示を通して、日本の社会・文化の理解を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の進化を説明できる。 2. 人間の多様な生活様式に関する知識を獲得する。 3. 人間の社会構造について説明できる。 4. 現代日本の家族・社会構造について説明できる。 5. 医療文化に関する知識を習得する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ヒトの進化（生物としてのヒト）</p> <p>第2回：ヒトの進化（文化をもつ人間の進化）</p> <p>第3回：人種と民族（ヒトの違いとは）</p> <p>第4回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以前、人間はどう生きていたか）</p> <p>第5回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕開始以降、人間はどう生きてきたか）</p> <p>第6回：人類諸社会の生計活動と生活様式（農耕以前と以降で人間の生活はどう変わったか）</p> <p>第7回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは）</p> <p>第8回：人類諸社会の親族構造・出自慣習（オヤコ、シンセキとは）</p> <p>第9回：人類諸社会の婚姻体系と家族（家族とは）</p> <p>第10回：現代日本の家族（日本の家族はどう変わったか）</p> <p>第11回：現代日本の家族（日本の家族はどこへ行く）</p> <p>第12回：伝統社会と現代日本における高齢者（高齢者は尊敬の対象）</p> <p>第13回：医療と文化（病と疾病の違い）</p> <p>第14回：医療と文化（医療は社会・文化的行動）</p> <p>第15回：医療と文化（医療は社会・文化的行動）</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%の結果で評価する。ただし、受講態度（出席、質問等）を加点要素とします。定期試験の成績しだいでは、授業中作成したノートの提出を求めることがある。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	使用しない。
参考図書	授業中、随時知らせます。
事前・ 事後学修	講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノートの再読が必要です。少なくとも 30 分はかけてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	地域ケア連携の基礎
科目責任者	佐藤 豊展
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	専門領域を超えて互いに学び合うことから、相互理解を深めて、保健医療福祉分野におけるそれぞれの専門職の役割や専門性を尊重する姿勢を身につける。またグループ活動を通して、対人援助における多職種連携・協働の必要性を理解し、多角的なものを見方ができるようになることをねらいとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対人援助職としての知識・技術を同じキャンパスで共に学ぶ仲間である、という意識をもち、相互に交流することができる。 2. 春セメスターの授業や実習体験を踏まえて、各自が目指す専門職の特徴と役割の概要を自分の言葉で説明できる。 3. 4 年次生や教員のプレゼンテーション、映像学習を通して、多職種連携を必要とする対象や場面、および他学部領域の専門職の役割・特徴について知ることができる。 4. なぜ専門職連携が必要か、および専門職連携をうまく行う上での注意点について考えることができる。 5. グループワークに主体的に参加する姿勢から、専門職連携についての意識づけができる。 6. グループワークによる学びを整理、統合し、各自が目指す専門職の役割と連携の必要性について、気づいたことや今後に向けての自己の学習課題をレポートすることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>看護学部：新實夕香理、大石ふみ子 (プレゼンテーション担当) 松元由香、兼子夏奈子、神崎江利子 社会福祉学部：野田由佳里、川向雅弘 (プレゼンテーション担当) 大場義貴、井川淳史、鈴木光男、飯田真也 リハビリテーション学部：鈴木達也、佐藤豊展 (プレゼンテーション担当) 藤田さより、谷哲夫</p> <p>【2 日間の集中授業とする】</p> <p>第 1～4 回 (第 1 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中グループ (学部混成で 1 グループ約 60 名) ごとのオリエンテーション。 2. 小グループ (学部混成で 1 グループ約 6 名) での自己紹介。春セメスターの学修等をふまえ、各専門職の役割について感じることを話し合う。 3. 大グループ (学部混成で 1 グループ約 120 名) ごとに、各学部の 4 年生 (3 名) から専門職やその学びについてプレゼンテーションを受ける。専門職の連携・協働に関する事例を視聴覚教材から学ぶ。 4. 小グループごとに、4 年生のプレゼンテーションや事例をもとに、専門職の役割や連携について話し合い、まとめの中間レポートを作成・提出する。 <p>第 5～8 回 (第 2 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大グループごとに、各学部の教員 (3 名) から専門職の仕事、役割、連携・協働についてプレゼンテーションを受ける。 2. 各学部の教員によるシンポジウムを受け、専門職連携の実際や課題について学びを深める。 3. 小グループに戻り、さらに「専門職連携」についてディスカッションを行い、まとめる。 4. 中グループごとに発表会を行い、各小グループでの 2 日間の学修の結果を発表する。 5. 学んだことを各自が最終レポートにまとめる (授業終了後に作成し、後日提出する)。 <p>#2 日間の集中講義のため、遅刻、欠席、早退は原則として認めない。</p> <p>#第 1 日目の学部混成によるグループワークにおいて、所属学部についてメンバーに紹介する時間がある。その際に役立つと思うテキストや資料を、各自で選択し持参すること</p>

アクティブ ラーニング	3 学部合同のグループ討議活動である。
評価方法	最終レポート 50%、授業態度・参加状況 50%。 また、小グループごとの中間レポート提出を必須とする。
課題に対する フィード バック	ディスカッションやグループ発表時に、担当教員からのコメントがある。
指定図書	授業時に「受講の手引き」ほか資料を配布する。
参考図書	青木 紀「ケア専門職養成の研究」赤石書院
事前・ 事後学修	1. 授業前に配布する当科目の連絡事項をよく読み、各自、事前ワークシートを 40 分程度かけて記載する(第 1 日目の授業時に持参する)。 2. 授業後は、配布資料等を見直し、40 分程度かけて最終レポートを作成する。
オフィス アワー	リハビリテーション学部所属の佐藤豊展研究室 (3512 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (atsunobu-s@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域実践アクティブラーニング I
科目責任者	鈴木 知代
単位数他	1 単位数 (30 時間) 選択 1 年次秋 semester～2 年次春 semester 開講
DP 番号と 科目領域	DP 7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	地域の中の保健医療福祉の大学として、行政機関、NPO 法人、地域の住民組織等と連携し人々が持つ個々の課題、人々が暮らす地域の課題解決のため、テーマを設定して看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学生と教員が、それぞれの特徴を活かし協働して地域活動を行う科目である。学外の多くの人との交流体験により、地域共生社会の意義を学び、連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術の向上を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域活動を通して、人々を生活者として捉えことができる。 2. 地域のニーズを、体験的に理解することができる。 3. 専門職、NPO 法人、地域の人々と連携し、地域で生活する人々の課題解決のために何が必要か教員と共に検討することができる。 4. 地域共生社会の実現に向けて、自分たちの活動の意義を説明することができる。 5. 連携に必要な専門職としてのコミュニケーション技術を向上させることができる。 6. 学生間の交流を通して、各自の学びを深めることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名></p> <p>鈴木知代、野崎玲子、伊藤純子、太田雅子、福田俊子、和久田佳代、落合克能、伊藤信寿、田島明子、根地嶋誠、田中真希</p> <p>※授業の詳細は「地域ケア連携の基礎」の中でお知らせします。</p> <p>第 1 回 (全体) : ・オリエンテーション ・プロジェクトの選択方法や履修方法の説明 ・教員の活動のプレゼンテーションより、学生は自分の参加するプロジェクトを選択する。 ・活動の基本となる考え方として「地域共生社会」についての講話</p> <p>第 2 回 : チーム作り、活動計画立案</p> <p>第 3～4 回 : 活動実施① 第 5 回 : 活動評価①</p> <p>第 6～7 回 : 活動実施② 第 8 回 : 活動評価②</p> <p>第 9～10 回 : 活動実施③ 第 11 回 : 活動評価③</p> <p>第 12～13 回 : 報告会準備</p> <p>第 14～15 回 (全体) : 活動報告会、まとめ</p> <p style="text-align: center;">*最低 3 回は地域に出て活動します。</p>

アクティブ ラーニング	ゼミ形式で行われる、演習科目です。
評価方法	活動計画書 (20%)、 活動内容 (50%)、 報告会の内容 (20%) 全体的な取り組み態度 (10%)
課題に対する フィード バック	活動計画作成時、毎回の活動終了後などでフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	演習オリエンテーションで提示します。
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてください。日程を調整 します。 鈴木知代：tomoyo-s@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師・看護師・理学療法士・作業療法士」の実務経験を有する講師が実務の観点 を踏まえて教授する科目です。

科目名	ボランティア論
科目責任者	福田 俊子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 春
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	現代社会において、その役割が大きく期待されているボランティアについて、その理念や原則、発展過程、また活動に参加することの意義や目的、現状、近年の議論等について学ぶ。そしてその学びを踏まえてボランティア観を身につけ、ボランティア活動に主体的に参加することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの基礎概念について理解できる 2. ボランティアに参加することの意義、目的について自覚できる 3. ボランティアの活動分野や現状について理解できる 4. ボランティア活動への関心、主体的な参加意欲を高める
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：オリエンテーション、初回アンケート ボランティアに関する今日的话题</p> <p>第2回：初回アンケート結果報告 グループ討議 「ボランティアらしさとは？」</p> <p>第3回：ボランティアの理念、基本原則</p> <p>第4回：ボランティアの発展過程</p> <p>第5回：グループ討議 「24時間テレビを考える」</p> <p>第6回：ボランティア受け入れ側の考え ゲストスピーカー</p> <p>第7回：現代社会におけるボランティアの意義</p> <p>第8回：ボランティア活動に参加するために一態度とルールー 聖隷クリストファー大学ボランティアセンターの役割と実際</p>

アクティブ ラーニング	グループ討議などを取り入れる
評価方法	授業への参加態度 30%、レポート 70%
課題に対する フィード バック	グループ討議等の結果、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時資料等を配布する。
事前・ 事後学修	事前学修：新聞やニュースの中で、ボランティアに関する記事・話題を探索し、毎回の授業に 臨む 講義予定表の中で提示した課題について、自主学習をし、理解を深める 事後学修：事後学修課題を提示するので期日までにMoodleに入力する (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ボランティア演習
科目責任者	津田 聡子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と科目領域	DP 7 共通科目
科目の位置付	7. 地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる
科目概要	<p>「ボランティアとは何か」を理解するために、実際にボランティア活動を体験して、そこから自分の生き方と社会の在り方を考える。</p> <p>本科目は、学生のボランティア活動を推進する目的から、ボランティア活動に対して「単位」の認定を行うものであり、認定対象となるボランティア活動とは、無償の社会福祉、社会貢献活動をさす。</p>
到達目標	ボランティア活動を実際に体験し、ボランティア論で学んだ理論を振り返り、自分の活動や他の履修者の活動報告を通して社会と人間について学ぶとともに、生涯に亘るボランティア活動の精神を身につける。
授業計画	<p>【担当教員名】 看護学部：津田聡子 社会福祉学部：坂本道子 リハビリテーション学部：石津希代子</p> <p>【単位認定】 単位認定希望者（30 時間・5 日間以上※1 のボランティア活動に対して認定する）は、単位認定申請書を提出する。その際、自分自身が社会福祉施設、社会福祉協議会、その他の社会福祉活動を行う団体等において既に行ったボランティア活動実績※2 を証明するための「ボランティア活動記録」※3 および「ボランティア活動記録簿」を併せて提出する。また、ボランティア活動の内容を「ボランティア活動報告会（毎年 12 月頃に開催する予定）」において報告する。</p> <p>※1 遠方での災害ボランティアに関しては、移動日も活動日に算定可能。 ※2 履修登録以前の実績（本学入学後）であっても、活動実績を証明できれば有効。 ※3 活動の内容、日付、時間等を記載し、主宰者等の証明印をもらうための様式。</p> <p>【履修・ボランティア活動に関するオリエンテーション】 本科目履修者は、「履修に関するオリエンテーション」に参加し、本科目の意義、目的、単位認定の方法・過程について理解、把握する。 特に、「ボランティア論」未履修者およびボランティア未経験者は、オリエンテーション時に説明するボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点などの理解に努めること。 また、ボランティアに関する自主学習や（活動先の情報等の）事前確認など、実際にボランティア活動を行う上で必要となる準備作業を十分に行うこと。</p> <p>【ボランティア保険】 ボランティア活動を行う場合、事前に必ずボランティア保険※4 に加入する。</p> <p>※4 ボランティア保険への加入は、春・秋セメスター当初の指定の期間にボランティアセンターで手続き可能。この時期に加入できなかった場合は、最寄りの社会福祉協議会にて自費（350 円程度）でボランティア保険に加入する。</p>

アクティブ ラーニング	自らボランティア活動を探し、参加することで、ボランティア活動に対する能動的な学習を行います。
評価方法	ボランティア活動記録および活動報告書の提出、ボランティア活動報告会への参加状況により、単位認定の可否を判断します。
課題に対する フィード バック	ボランティア活動報告会にて口頭でフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	オリエンテーション時に資料を配布します。
事前・ 事後学修	ボランティア活動を行う上での心構えや注意すべき点を理解するために、自主学習や（活動先の情報等の）事前確認などをしてください。目安時間 40 分。
オフィス アワー	所属学部：看護学部 研究室：1619 研究室 在室時は随時対応します。 不在時はメール（satoko-t@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	なし

科目名	大学間交流授業
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	<p>大学間交流授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会主催の共同授業です。</p> <p>静岡県西部地域の大学が協力し、統一テーマのもとに授業を行います。参加する大学の講師陣がそれぞれの特徴を生かし、オムニバス形式の講義を展開します。</p> <p>この大学間交流授業を履修し、修得した単位は本学の単位として認定されます。</p> <p>ふじのくに地域・大学コンソーシアムのホームページをご覧ください。</p>
到達目標	—
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>履修希望者は、2019 年度春semester中に教務事務センターから公表する募集要項等を確認してください。ふじのくに地域・大学コンソーシアム西部地域連携事業実施委員会への応募を行わない場合、秋semesterへの履修登録ができませんのでご注意ください。</p>

アクティブ ラーニング	—
評価方法	毎回の試験やレポートが課せられます。
課題に対する フィード バック	—
指定図書	なし
参考図書	
事前・ 事後学修	—
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	—